

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2018年4月)

発表日: 2018年5月14日(月)

～原油価格上昇の一方で、薬価改定が下押し圧力となり、企業物価は小幅上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 小池 理人
TEL: 03-5221-4573

(単位: %)

		国内企業物価				国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	最終消費財 (国内品)		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2017	5月	0.0	2.1	▲ 0.5	0.7	0.0	2.3	1.0	4.4	1.3	12.4
	6月	0.1	2.2	0.1	0.5	0.1	2.5	▲ 0.7	5.7	▲ 1.7	11.5
	7月	0.0	2.5	▲ 0.1	0.8	0.0	2.8	1.1	7.6	0.2	11.9
	8月	0.0	2.8	0.0	0.9	0.0	3.1	▲ 0.5	8.4	▲ 1.2	12.8
	9月	0.3	3.1	0.1	0.8	0.3	3.3	1.2	9.1	1.9	13.8
	10月	0.6	3.5	0.4	1.0	0.6	3.8	1.9	9.8	2.7	15.6
	11月	0.4	3.5	0.7	1.5	0.4	3.7	0.2	6.9	1.1	10.4
	12月	0.2	3.0	0.1	1.2	0.2	3.2	0.3	2.4	1.9	7.3
2018	1月	0.3	2.7	▲ 0.1	1.3	0.3	2.9	▲ 0.6	1.7	▲ 0.4	5.0
	2月	0.1	2.6	▲ 0.2	1.0	0.1	2.7	▲ 1.1	0.8	▲ 0.1	4.4
	3月	▲ 0.1	2.1	▲ 0.2	0.5	▲ 0.1	2.2	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 1.8	1.7
	4月	0.1	2.0	▲ 0.5	▲ 0.2	0.1	2.0	0.5	2.2	1.2	5.0

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○4月の国内企業物価は前月比+0.1%

日本銀行より発表された2018年4月の国内企業物価指数は前年比+2.0% (コンセンサス: 同+2.0%、レンジ: 同+1.3%~+2.6%)、前月比では+0.1% (コンセンサス: 同+0.1%、レンジ: 同▲0.1%~+0.4%)と、コンセンサス通りの結果となった。

夏季電力料金調整後の前月比の内訳をみると、石油・石炭製品(前月比: +1.4%、前月比寄与度: +0.09%ポイント)や電力・都市ガス・水道(前月比: +1.0%、前月比寄与度: +0.06%ポイント)が上昇に寄与した一方で、化学製品(前月比: ▲2.1%、前月比寄与度: ▲0.19%ポイント)やスクラップ類(前月比: ▲5.4%、前月比寄与度: ▲0.04%ポイント)が下落に寄与し、国内企業物価は前月比で+0.1%となった。原油価格の上昇を受けて、ガソリンをはじめとした石油・石炭製品や電力が上昇した。一方で、2018年度の診療報酬改定において医薬品の価格が引き下げられたことが、約0.22%ポイント下落に寄与し、化学製品が下落した。また、鉄スクラップの在庫増を受けて、スクラップ類も下落に寄与した。

○円高一服により円ベースでの輸入物価は4ヶ月ぶりのプラスに

4月の輸入物価は、契約通貨ベースで前月比+0.2%となった。集積回路やサーバなど電気・電子機器の上昇寄与が大きく、その他でも大半の項目がプラスとなっている。一方で、円ベースでは為替が同+1.3%と円安方向に推移したことから、同+1.2%と4ヶ月ぶりのプラスとなった。

先行きについて原油価格を見ると、WTIは70ドル/バレルを超える水準まで上昇しており、輸入物価は当面プラス圏内での推移が続くものとみられる。

○消費財の国内品は前月比▲0.5%

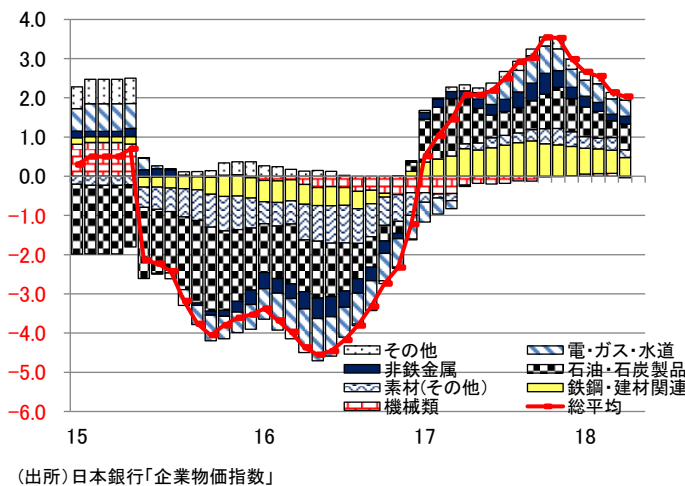
需要段階別指数（国内+輸入）をみると、素原材料は前月比+0.9%（前年比+9.3%）、中間財は同+0.6%（同+3.5%）、最終財は同▲0.1%（同▲0.1%）となった。消費者物価と関連の深い消費財の国内品については、薬価改定による押し下げ圧力を受けて前月比▲0.5%（前年比▲0.2%）と4ヶ月連続の下落となっている。今月は為替が円安方向へ動いたことから、素原材料・中間財で価格が上昇に転じた。足元もドル円相場が1ドル=109円を超える水準で推移していることから、川上から川下への価格上昇圧力がかかるものとみられる。

○企業物価は横ばいから小幅プラスで推移する見込み

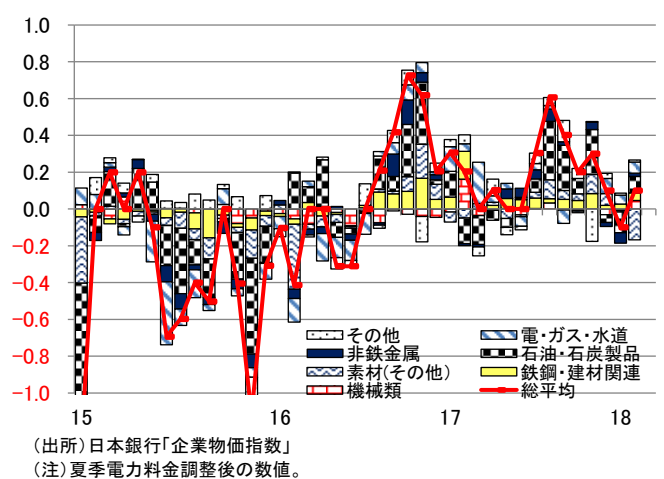
以上のように、4月の国内企業物価は、石油・石炭製品や電力など原油価格上昇の影響を受けた項目がプラスに寄与した一方で、薬価改定の影響によって化学製品がマイナスに寄与したことで、前月比+0.1%となった。

先行きについては、好調な世界経済を背景に国際商品市況が底堅く推移する可能性が高いことや為替の円高方向への推移が一服したことから、前月比では横ばいから小幅プラス程度の推移を予想している。また、足元までの原油価格の波及ラグを鑑みると、電気代の押し上げについても9月頃までは続くことが想定される。ただし、前年比でみれば、前年に上昇していた裏が出ることから、鈍化傾向で推移する可能性が高いだろう。

国内企業物価前年比寄与度分解(%)



国内企業物価前月比寄与度分解(%)



需要段階別指数（国内+輸入、前年比）

